

表題 社会実践を強く意識したカリキュラム・研究指導によるデータ人材育成

【取組の特色】

デジタルに関する知識や技術は、現在では情報系だけでなく様々な工学分野と深い関係性を有しており、各分野でデジタル技術を有する人材が必要とされている。本学では、学部低学年においては、全ての工学分野の共通基盤として情報に関する教育を行うとともに、学部高学年及び大学院においては、デジタル技術を活用して社会的課題の解決に取り組むなどにより、社会実践を強く意識したカリキュラム・研究指導によるデータ人材育成を図っている。

・ 三大学連携の強化による社会的課題解決に対する実践的教育

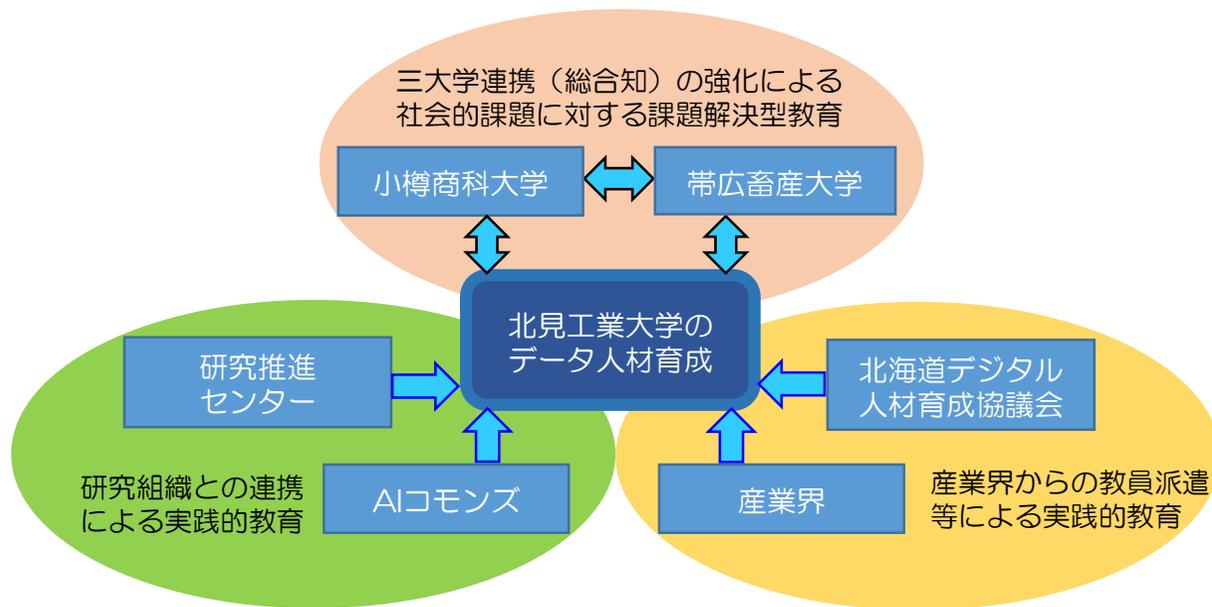
本学は令和4年度に、小樽商科大学、帯広畜産大学と経営統合し、三大学で相互に科目提供しており、「数理・データサイエンス科目」は柱の一つで、本学が三大学に科目提供することにより、他の二大学におけるデータ人材育成に貢献している。さらに、実践的なPBL科目の履修も可能とするため、まずは本学の学生を対象に開講しており、その後、三大学学生の混成チームにより社会的課題解決に取り組む科目への拡張を図る。

・ 研究組織との連携による実践的教育の強化

本学の取組における特色として、1次産業、冬季スポーツ、防災等へのデジタル技術の導入や応用等に対応できる人材の育成と輩出がある。具体的には、本学には4つの研究推進センター及びAIコモンズ（全学的なデジタル技術の共創拠点）が設置され、教員の約7割がそれらの1つ以上に所属しており、それらにおける研究活動のうち、デジタル技術を活用する研究の一部を卒業研究、修士論文研究、博士論文研究のテーマとすることで、学生が社会的課題に取り組み、実践的教育として活用している。

・ 産業界との連携を深めて、より実践的な教育を強化

ラピダスの北海道進出を契機として、北海道デジタル／半導体人材育成推進協議会が発足した。本学では早速、それらの協議会を通して、産業界からの講師の派遣を受け、令和6年度では三つの授業で実践的教育を開始する。今後も産業界との連携を深め、さらに実践的教育の充実を図る。



【期待できる成果】

情報系に限らず全ての工学分野でデジタル技術に関する教育を実施し、さらにデジタル技術を核として、各工学分野における社会的課題解決を学生に経験させるなどの実践的教育を実施することで、学生がデジタル技術に理解を深めるとともに、社会人になってからも各工学分野でデジタル技術を活用できるデータ人材として育成することができる。

【参考URL】

- ・ 国立大学法人北海道国立大学機構ホームページ 教育イノベーションセンター  
<https://www.nuc-hokkaido.ac.jp/innovation/>
- ・ 北見工業大学ホームページ 数理・データサイエンス・AI教育プログラム  
<https://www.kitami-it.ac.jp/campuslife/kyouikukatei/mdashprogram/>